

エゾマツ



2007年 夏季号 81

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

- 1 地球温暖化と自然観察会 会長 田村允郎

<第22回定期総会報告、資料、役員会の資料など>

- 2 定期総会 成功のうちに終了 広報部
3 総会資料
4、第1回役員会の資料、

<自然観察会、支部報告など>

- 5 藻岩山に想う 札幌市 井内亮司
6 登山観察会に参加して 札幌市 伊藤和夫
7 七飯十景 七飯町 岡村敏夫
8 地球温暖化とボラレン活動 江別市 中西敏雄
9 小樽オタモイ、赤岩岳観察会 小樽市 北原 武
10 塩谷丸山自然観察会 小樽市 大川良祐
11 各地での自然観察会に多くの市民参加 広報部
12 ワッカ原生花園 資料 北見支部
13 観察会に参加して 札幌市 弗田成子

<連載>

- 14 コケを訪ねて 札幌市 吉田政徳
15 記紀の中の植物（面白い話）II 札幌市 成田伸一
16 癒しのこと 苫小牧市 谷口勇五郎
17 天塩川 “百年の流れ” 追って 札幌市 小泉三雄

<研修会・観察会の予定・案内>

- 18 ワッカ原生花園観察会及び研修会 研修部
19 案内 ボランティア・レンジャー育成研修会
編集後記



地球温暖化と自然観察会

会長 田村 允 郁

ローマ帝国時代の紀元前58年から51年にかけて、シーザーのローマ遠征記である「ガリア戦記」に現在のドイツのシュヴァルツヴァルトを含むヘルニキアの森について、次の記述があります。「60日間の行程を経て森の端まで行ったものがないし、森がどこから始まるのを聞いたものもない」

紀元前のヨーロッパの森の状況を端的に表したこの記述ですが、現在このシュヴァルツヴァルトという名は「黒い森」と訳されていますが、本来の意味は「暗黒の森」との意味であるとも言われています。

このヨーロッパでは11世紀初頭に生じた開墾運動が、12世紀には最高潮に達し13世紀にも勢いが止まらず、さらにその後の鋳工業の発達と建築用材や造船用材の需要で決定的に森林の破壊が進んでいきました。

近年、地球環境の悪化に伴い森の効用について、世界的レベルの論議がなされています。森林が光合成によって取り込んでいる二酸化炭素はかなりの量で、現在世界の森林が保有している炭素量は大気中の炭素量の2倍にもあたるとのデータがあります。そこで、森林は「炭素の貯蔵庫」とか「二酸化炭素濃度の自動制御」の働きをすることによって、地球温暖化対策や地球環境保全の役割としての存在がクローズアップされています。

つい最近、7月6日にドイツのハイリゲンダムで主要国首脳会議が開催され、3日間の討議を終えましたが、最大の焦点である地球温暖化対策で、主要排出国による新たな枠組みを2008年末に立ち上げるとともに、2050年までの温室効果ガス排出量半減を検討するとの総括をしました。しかし、日本の現状には大変厳しい状況にあることも事実です。1998年「京都議定書」が採択され、日本では2008年から2012年の平均で1990年比6%の温室効果ガス削減を義務づけられているにもかかわらず8.1%も増加しています。特に家庭からは37.4%も増えている実態があります。また、二酸化炭素の最大の排出国であるアメリカの他人事のような態度も気になります。

「ガリア戦記」の記述とドイツのハイリゲンダムでの主要国首脳会議の総括を重ね合わせると、なんとも皮肉な思いと人間の愚かさが浮かびあがってきます。地球温暖化対策について私たちにできること、小さなことでも取り組めることの一つに観察会を通して森林がもつ二酸化炭素の自動制御の仕組みを語り参加の人々に危機意識を持ってもらうことも必要です。花や樹木の名前を解説するだけではなく森林がはたす地球環境保全の効用にも触れていきましょう。

4月21日 第22回 定期総会

20周年記念事業の成果などを確認し成功のうちに終了

広報部

定期総会に先立って、1時30分から研修会が開催され、講師に石川清さん（道漁業環境保全対策本部 研究室長）を迎えて「漁業からみた水環境」というテーマの講演が行われた。

北海道はサケ、マスの放流、捕獲など、特に川が大切な役割を担ってきている。そのため、川を大事にするには、川と森とのかかわり、川と海とのかかわり、その三つの関連がとても重要である。そのことに早く気づき、オホーツクや日高などの漁業関係の女性たちが中心になって植樹（約74万本）などに取り組んできたことが紹介される。

水質を汚濁させる要因として、森林の伐採、林道施行、ダム建設、工場排水、牛などの糞尿、などをあげることができる。それらに注意を喚起しながら、さまざまな対策をとってきたことが話された。

若い研究者の石川清さんから、丁寧でわかりやすい説明をいただき、<水環境>という角度から自然保全を考えていくことの大切さを学んだ。

総会は、3時より総務部長の三崎さんから、出席者30名、委任状67名、計97名で大会が成立していることが報告された。

最初、会長の田村さんから20周年記念事業などをふりかえり、今後の活動のあり方などが話された。

つづいて、来賓のみなさん、道自然環境課主査の小森節子さん、野幌森林公園事務所公園利用課長の野口光紀さん、今年度からふれあい交流館の指定管理者となった開拓の村専務理事の大島隆さんから挨拶をいただいた。

今日、ますます自然保護が重要な課題になってきているので、ふれあい交流館などをもっと市民に利用していただいて、一層の自然理解が深まっていくことを願っている。そのためには協力関係を密にしていきたいという力強いメッセージをいただいた。

議長に、松原健一さんを選出し、1号議案を春日事務局長から提案された。それを補うかたちで地方支部の活動の報告、小樽支部、富良野支部、オホーツク支部から経過報告と今後の取り組みなどが発表された。また、法人野生生物基金が主催するフラワーソンに定山溪、北広島レクの森の2カ所で取り組むことも提案された。

1号議案は、会計報告、監査報告などを含めて全会一致で承認された。

つづいて、2号議案、19年度の事業計画、予算案が事務局長から提案されこの案件も全会一致で承認された。今年度の総会では役員改選もなく成功裡に終わりました。

平成19年度 第22回定期総会



日時 平成19年4月21日（土曜日）
13:00～16:30

場所 北海道環境サポートセンター
（札幌市中央区北4条西4丁目1番地 伊藤・加藤ビル4F）

北海道ボランティア・レンジャー協議会

平成19年度 第22回定期総会日程

日時 平成19年4月21日(土) 13:00~16:30

受付 13:00~13:30

研修会 13:30~14:50

総会 15:00~16:30

〈研修会〉

◇演題「漁業からみた水環境」

講師 石川 清 氏

(北海道漁業環境保全対策本部 研究室々長)

〈定期総会〉

司会進行

(出席・委任状、総会成立確認)

1. 開会

2. 会長挨拶 田村会長

3. 来賓紹介と来賓挨拶

北海道環境生活部環境局自然環境課自然ふれあいグループ

野幌森林公園事務所公園利用課長

自然ふれあい交流館々長

副館長

主査 小森 節子 氏
野口 光紀 氏
大島 隆 氏
山田 健 氏

4. 議長選出と議事録署名人の選出

5. 議長就任挨拶と議事録署名人の紹介

6. 議事

1号議案

- ・平成18年度事業報告
- ・20周年記念事業報告
- ・平成18年度決算報告並びに監査報告

2号議案

- ・平成19年度事業計画(案)
- ・平成19年度収支予算(案)

7. 議長退任

8. 閉会

〈連絡事項〉

1号議案

1.平成18年度事業報告

(1) 観察会事業

月	観察会・研修会	日時	集合場所	参加人数		備考
				一般	会員	
4	春の花を見つけよう観察会	4.27(木) 10:00~12:30	交流館(大沢口)	77	14	共催
5	春の有り難う観察会	5.14(日) 10:00~14:30	交流館(大沢口)	32	8	共催・昼食持参
	恵庭公園観察会	5.21(日) 10:00~12:00	恵庭公園駐車場	6	7	主催
	三角山登山観察会	5.28(日) 10:00~14:00	緑花会館登山口	1	7	主催
6	森の新緑観察会	6.11(日) 10:00~13:00	交流館(大沢口)	73	11	共催・交流館食事
	北広島レクの森観察会	6.18(日) 10:00~12:00	レクの森入り口	14	7	サークル活動
	富良野東大演習林研修	6.30(金)~7.1(土)	富良野麓郷		21	主催
7	初夏の森観察会	7.9(日) 10:00~12:30	交流館(大沢口)	20	10	主催
	芸術の森周辺観察会	7.23(日) 12:00~12:00	停留所前	10	7	サークル活動
8	森の探検隊	8.3(木) 10:15~12:30	開拓記念館	45	5	共催
	鶴川海浜植物観察会	8.26(土)~27(日)	鶴川四季の館		15	主催
9	秋の花で賑わう森を歩こう	9.14(水) 10:15~14:30	開拓記念館	85	12	共催・昼食持参
	オホーツク支部研修会	9.16(土)~17(日)			9	
10	森のにおいをかごう	10.15(日) 10:00~14:30	交流館(大沢口)	43	12	共催・昼食持参
11	晩秋の森観察会登別コース	11.3(金) 10:00~14:30	交流館(大沢口)	27	15	主催・昼食持参
	秋の有り難う観察会	11.12(日) 10:00~12:30	交流館(大沢口)	荒天・中止		共催・昼食持参
	西岡水源地自然観察会	11.23(木) 10:00~12:30	公園管理事務所前	3	11	主催
12	冬の森の観察会	12.10(日) 10:15~13:00	交流館(大沢口)	20	5	共催・交流館食事
1	円山登山観察会	1.14(日) 10:00~12:30	円山登山口	2	8	主催
2	藻岩山登山観察会	2.25(日) 10:00~14:30	慈恵会登山口	6	7	主催
3	野幌の春を探そう	3.25(日) 10:00~13:00	交流館(大沢口)	45	9	共催・交流館食事
	参加者総数			509	200	

(2) 地方・支部の活動報告

・小樽支部観察会

観察会名	実施日	参加人数				備考
		一般	会員	補助	計	
オタモイ～赤岩山	4月30日(日)	35	7		42	
春香山	5月27日(土)	18	7		25	
定山溪天狗岳	6月22日(木)	16	4		20	バス
富良野岳	7月12日(水)	18	3		21	バス
オコバチ山～穴滝	7月22日(土)	11	4		15	
塩谷丸山～最上町	9月16日(土)	24	4		28	
風不死山	10月20日(金)	16	6		22	バス
小樽市有林内	11月11日(土)	18	5		23	
天狗山東斜面	2月18日(土)	7	6		13	
天狗山～オコバチ川	3月25日(土)	9	2		11	

(3) 研修会事業

- ・4月22日(土) 講演 「いろいろなキノコ」
講師 豊澤 勝弘 様 (会員 苫小牧)
 - ・6月30日(金)～7月1日(土) 富良野東大演習林観察会 (研修会を兼ねる)
 - ・8月26日(土)～27日(日) 鶴川海浜植物観察会 (研修会を兼ねる)
 - ・9月16日(土)～17日(日) オホーツク支部 「秋季講習会」
北見市自然休養林センター 北見市若松651
- (注) 各種観察会の下見を会員研修の場として実施

(4) 他団体への協力派遣事業

- ・9月22日(金) 江別第二小学校三年生総合学習対応 ボラレン会員8名参加
- ・7月29日(土) 北広島レクの森自然観察会 北広島市環境課、石狩支庁環境生活課
本会から 4名の派遣
- ・8月12日 芸術の森周辺観察会参加の常磐中学校PTAから「学校便り」の原稿の依頼を受ける

(5) 広報誌「エゾマツ」・「自然観察NOW」発行事業

- ・6月23日(金) エゾマツ 77号 発行
- ・10月24日(火) エゾマツ 78号 発行
- ・1月31日(水) エゾマツ 79号 発行
- ・3月27日(火) エゾマツ 80号 発行

(6) 会議

- ・5月10日(水) 第1回役員会 18:30～ 環境サポートセンター
- ・7月5日(水) 臨時役員会 18:30～ 環境サポートセンター

- ・9月28日（木） 第2回役員会 18：30～ 環境サポートセンター
- ・1月31日（水） 第3回役員会 18：30～ エルプラザ会議コーナー
- ・4月10日（火） 第4回役員会 18：30～ エルプラザ会議コーナー

(7) 道との関わり

- ・7月21日（金）～23日（日） 北海道ボランティア・レンジャー育成研修会（登別）
当会への会員加入勧誘活動 田村会長出席 会員加入者10名
- ・12月9日（土）～10日（日） 北海道ボランティア・レンジャー実践セミナー
自然ふれあい交流館 2日目日程は観察会とダブルらせて実施
一般参加者20名・ボラレン参加者20名（その内セミナー参加者15名）

(8) その他の活動

- ・5月17日（水） ボランティア活動保険・ボランティア活動等行事用保険の手続き
- ・6月22日（木） 東大演習林セミナーハウス使用申請書作成・提出
- ・8月から、20周年記念事業PR活動盛んになる
- ・12月1日（金） 18：30～ 忘年会 七福神
- ・12月6日（水） 札幌エルプラザ公共4施設利用の「札幌市環境プラザ」に登録。
環境研修室1・2（有料）が使えるようになる
- ・12月13日（水） エルプラザ札幌市民活動サポートセンターの市民活動団体登録をした
会議コーナー・打ち合わせコーナー・印刷作業室を無料で使えるようになる。
- ・12月21日（木） エルプラザ札幌市民活動サポートセンターの環境活動団体登録の
審査が通った。ミーティングルームが無料で使えるようになる。
登録有効期間は2年間。登録番号は41261である。
- ・1月26日（金） 野幌森林公園事務所の相馬所長・藤本・濱本・春日打ち合わせ
- ・3月14日（水） 北海道自然環境課自然ふれあいグループリーダー主管今村 衛氏
同、主査、小森節子氏・自然ふれあい交流館公園利用課長野口光紀氏、
主任藤本 剛氏、濱本真琴氏・北海道開拓の村学芸課長山田 健氏
企画普及課主事松井則彰氏、オギワラ氏・田村、春日打ち合わせ
19年度体制へのソフトランディング

2.北海道ボランティア・レンジャー協議会 20周年記念事業報告

(1) 記念事業

①記念会員写真展

期日：平成18年9月2日(土)～9月30日(土) 9:30～16:30 4・11・19・25日は休館日
場所：野幌森林公園 自然ふれあい交流館ギャラリー(江別市西野幌685-1)

出展者	作品名
篠内 道夫	「フッキソウ」・「クリンソウ」
松原 健一	「エゾノリュウキンカ八重咲き」・「チョウセンゴヨウ松ボックリからの発芽」
豊澤 勝弘	「香りまつたけ味しめじ」
川端 功治	「三重咲きフクジュソウ」・「クガイソウ」
佐藤 敏幸	「夕暮れに遭遇したヒグマ」・「秘密の食卓」
門村 徳男	「鶴川の春」・「reserve」
田中 利男	「お客さん」・「お客さん」
内山 恭子	「寒くないワ」
南部 栄一	「笠ヶ岳山頂標識」・「笠ヶ岳山頂祠」・「木曾御岳山頂」・「沼ノ原登山口付近でのヒグマ」
小嶋 章夫	「自然とたわむる」
春日 順雄	「雄大」(富良野岳から十勝岳)・「初冬」(ホロホロ山から徳隣方向)
小山賢一郎	「キタコブシ」

②記念会員研修会

日時：平成18年9月18日(月) 10:00～15:00
場所：野幌森林公園 自然ふれあい交流館ギャラリー(江別市西野幌685-1)
講師：五十嵐 恒夫さん 北海道名誉教授
演題：「森林とキノコ」
参加者数：41名(申し込み数 49名)
講演要旨：「エゾマツ」20周年記念特別号参照のこと

③記念講演会

日時：平成18年10月9日(月・体育の日) 13:30～15:00 受付開始 13:00
場所：かでの2・7 520号室(札幌市中央区北2条7丁目)
講師：大橋 弘一氏(写真家・2003年より北海道自然雑誌 faura 編集長)
演題：「野鳥を通して知る北海道の自然」
参加者数：103名(会員42名・一般60名・道1名)
講演要旨：「エゾマツ」20周年記念特別号参照のこと

④「エゾマツ」20周年記念特別号 平成18年12月13日発行

⑤フィールドガイド(仮称)の作成 平成19年12月上旬完成予定
a.仕事分担 ・編集委員：田村・三崎・春日・佐藤・内山・熊野 ・編集委員長：田村
・事務局長：春日 ・会計担当：三崎 ・写真担当：佐藤

平成18年度収支決算書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

収入額 626,192円

支出額 422,647円

差引 203,545円(次年度へ繰越)

収入の部

単位:円

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a-b)	摘要
前年度繰越金	184,142	184,142	0	
年会費	375,000	397,000	▲22,000	
雑収入	10,858	45,050	▲34,192	保険料、協力謝礼金
合計	570,000	626,192	▲56,192	

支出の部

単位:円

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a-b)	摘要
総務部費	90,000	94,962	▲4,962	通信費、会議室借用費、振替手数料
事務局費	100,000	69,907	30,093	通信費、事務用品費
研修部費	100,000	76,382	23,618	研修会謝礼金、研修雑費
活動費	100,000	63,248	36,752	地方支部活動費、観察会交通費
広報部費	160,000	118,148	41,852	会報エゾマツ制作費、郵送費
予備費	20,000		20,000	
合計	570,000	422,647	147,353	

20周年記念事業中間決算(18年分)

単位:円

項目	金額	摘要
事務費	32,933	臨時役員会12,100 通信費19,020 事務用品費他1,813
写真展	14,291	用品費7,531 輸送費6,580 その他180
会員研修会	70,420	講師謝礼金70,000 その他420
記念講演会	129,649	講師謝礼金100,000 資料印刷費10,797 会場費8,230 その他10,622
エゾマツ特集号	46,893	通信費21,190 印刷費15,400 用品費6,923 その他3,380
ガイドブック	21,650	編集会議費(3回)11,650 用品費10,000
合計	315,836	

平成18年度 財産目録

平成19年3月31日

科目	金額	科目	金額	備品
通常貯金	828,795	一般会計繰越金	203,545	聴診器5本、携帯救急医療箱1セット
		20周年準備金	625,250	望遠鏡2台、双眼鏡15台
計	828,795	計	828,795	簡易アイゼン5脚

監査報告書

私たち監事は、会則第11条の5に基づき、平成18年4月1日から平成19年3月31日までの会計処理について、会計帳簿および証憑書類を精査検証した結果、適正なものと認めます。

平成18年4月10日

監事 猪師 勉
監事 高松文雄

2 号議案

1. 平成19年度事業計画（案）

(1) 事業計画の方針

目標「自然との共存、日常の実践から」

- 重点
1. 観察会の企画や実施と運営についての研修と実践につとめる
 2. 会員の意見や社会の要請を受け止め、会の活動改善に生かしていく。
 3. 育成研修会での入会者の勧誘に努める

具現化の視点

1. 研修テーマを設定した下見会の実施を試みる
2. 指定管理者制度の「自然ふれあい交流館」との関わりのソフトランディング
3. 主催事業のPR活動の工夫
4. 観察会当日のボラレン会員参加数の把握

(2) 会議

① 定期総会

平成19年4月21日（土） 環境サポートセンター

② 役員会 理事会を年4回（5月、9月、1月、3月）に開催、三役会は必要に応じて開催

- | | | | |
|-----------|--------|-----------|--------|
| ・5月14日（月） | 第1回役員会 | ・9月14日（金） | 第2回役員会 |
| ・1月24日（木） | 第3回役員会 | ・3月6日（木） | 第4回役員会 |

(3) 観察会・研修会・調査活動

- ① 観察会については別紙による。また、サークル活動の観察会があれば随時実施。
- ② 研修会についても別紙による。また、会員の要望と必要に応じ実施。
- ③ 観察会の下見と実施後の反省をもとにした記録の集積を図る。
- ④ テーマをもった下見会の実施を試みる。

(4) 他団体への協力

- ① 観察会ガイドの要請については、主催の目的等を把握し協力していく。
- ② 各関係機関や団体が行う自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。

(5) 広報誌「エノマツ」発行

- ① 年4回（6月中旬、10月中旬、1月中旬、3月下旬）の発行
- ② 紙面内容と体裁の充実に努力していく。
- ③ 観察会一般参加者に「自然観察NOW」の配布

(6) 支部や地方会員の活動の活発化

- ① 支部や地方会員の活動化に事務局は積極的に取り組む。
- ② 各会員の思いや要望の発信を受けとめたり、広報誌による交流を活発化させる。
- ③ 会員数を増やすための働きかけを強めていく。

3.平成19年度予算（案）

収入の部

単位：円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
前年度繰越金	203,545	184,142	
年会費	375,000	375,000	会員125名@3000円
雑収入	11,455	10,858	保険料、協力者礼金
合計	590,000	570,000	

支出の部

単位：円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
総務部費	100,000	90,000	総会案内等通信費、会議室借用料、振替手数料
事務局費	100,000	100,000	通信費、事務用品費
研修部費	100,000	100,000	研修会講師謝礼金、研修雑費
活動費	100,000	100,000	地方支部活動費、観察会交通費
広報部費	160,000	160,000	会報エゾマツ制作費、郵送費
予備費	30,000	20,000	
合計	590,000	570,000	

第22回 定期総会 その様子



講演する石川清さん



平成19年度 観察会・研修会予定

北海道ボランティア・レンジャー協議会

月	行事名	実施月日	下見	集合・解散場所		備考	テーマ	当番
4	春の花を見つけよう	26日(木) 10:00~12:30	19日(木) 10:00	交流館集合・解散	共催		早春の野鳥観察	春日・高松
5	春のありがとう観察会	13日(日) 10:00~14:30	12日(土) 10:00	交流館集合・解散	共催	昼食、ゴミ袋、軍手持参	ゴミ拾い・春の花	小林・春日
	濃昼古道研修会	16日(水)			研修	小樽支部と合同		田村・伊藤
	恵庭公園観察会	20日(日) 10:00~12:00	19日(土) 10:00	恵庭公園駐車場集合・解散	主催			小林・橋場
	三角山登山観察会	27日(日) 10:00~14:00	26日(土) 10:00	緑花会館登山口集合・解散	主催			田村・熊野
6	森の新緑観察会	3日(日) 10:00~12:30	2日(土) 10:00	交流館集合・解散	共催	環境月間行事	初夏の草花	小林・高松
	鶴川桜草観察会	9日(土) ~6.10(日)		鶴川四季の館	主催			小林・門村
	北広島レクの森観察会	17日(日) 10:00~12:30	16日(土) 10:00	レクの森入り口集合・解散	主催	サークル活動		伊藤・佐藤
	東大演習林研修	29日(金)~30日(土)			主催			小林・南部・宮田
7	初夏の森観察会	8日(日) 10:00~12:30	7日(土) 10:00	交流館集合・解散	主催			春日・佐藤
	芸術の森周辺観察会	22日(日) 10:00~12:00	21日(土) 10:00	芸術の森停留所前集合	主催	サークル活動		今村・春日
8	夏の森の観察会	2日(木) 10:15~12:30	7月26日(木) 10:00	開拓記念館前集合 瑞穂池園地解散	共催		夏の花、瑞穂池	
	ワッカ原生花園、常呂遺跡	4日(土)~5日(日)			主催			小林・和泉
9	秋の花でにぎわう森を歩こう	13日(木) 10:15~14:30	6日(木) 10:00	開拓記念館前集合・解散	共催	昼食持参	秋の花観察	熊野・伊藤
10	森の匂いをかごう	14日(日) 10:00~14:30	13日(土) 10:00	交流館集合・解散	共催	昼食持参	紅葉・木の実観察	
11	晩秋の森観察会 志文別コース	3日(土) 10:00~14:30	2日(金) 10:00	交流館集合・解散	主催			
	秋のありがとう観察会	11日(日) 10:00~12:30	10日(土) 10:00	交流館集合・解散	共催	ゴミ袋、軍手持参	ゴミ拾い、木の実・草の実	内山
	西岡水源地自然観察会	23日(金) 10:00~12:30	22日(木) 10:00	管理事務所前集合・解散	主催			
1	円山登山観察会	20日(日) 10:00~12:30	19日(土) 10:00	円山登山口集合・解散	主催			
2	兼岩山登山観察会	17日(日) 10:00~14:30	16日(土) 10:00	慈恵会登山口集合・解散	主催			
	冬の森の観察会	24日(日) 10:00~12:30	23日(土) 10:00	交流館集合・解散	共催		野鳥・雪上痕跡観察	
3	野幌の春を探そう	23日(日) 10:00~12:30	22日(土) 10:00	交流館集合・解散	共催		芽吹き・野鳥観察	

平成 19 年度

北海道ボランティア・レンジャー協議会第 1 回役員会

日時：平成 19 年 5 月 14 日（月曜日） 18：30～

会場：札幌エルプラザ会議コーナー

I. 開会

II. 会員挨拶 ホームページアドレス <http://volaren.sakura.ne.jp>

メールアドレス mailbox@volaren.sakura.ne.jp

III. 報告事項

1. 総務部 4 月 1 日の会員数は 129 名

2. 研修部

(1) 4 月 26 日（木）野幌森林公園観察会 ボラレン 10 名 一般 48 名の参加

(9) 5 月 13 日（日）春の有り難う観察会 ボラレン 15 名 一般 33 名

3. フィールドガイド編集会議 5 月 10 日（木） 10：00～12：30

4. 事務局

(1) 4 月 21 日（土）平成 19 年度 第 22 回定期総会 出席 32 委任状 67 計 99 名
提案通り報告事項、協議事項が承認された

(2) 4 月 24 日（火）環境道民会議 10：00～12：00 かでる 2・7 佐藤・春日出席

(3) 4 月 25 日（水）研修会講師 石川清氏から講演に資料をコピーした CD-ROM が
送られてきた。CD-ROM と返送料金を送っていただけたら、コピーが可能である。

(4) ボラレン主催行事の PR5 月行事が、ウォッチングガイド 5 月号と環境講座カレンダー 5 月号に掲載された

(5) 「北海道フラワーソン 2007 に申し込まれた皆さまへ」

グループ名：北海道ボランティア・レンジャー協議会 グループ番号：0125

代表者名：佐藤清一 参加人数：10 名 調査地図名：石狩広島・定山溪

説明会場：札幌東部地区 5 月 26 日（土）午後 1 時～3 時

実施日：6 月 16 日・17 日（土・日）

(6) 5 月 13 日（日） 15：30～ 19 年度北海道ボランティア・レンジャー育成研修会についての相談

(7) 江別第二小学校総合学習について（電話：383-0015）担当 佐藤

9 月 21 日（金）安全面とグループ人数について事前打ち合わせをする

(8) つながるための ESD 環境省 北海道環境パートナーシップオフィス
ESD 持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）の略

IV. 協議事項

1. 総務部：19 年度 各部仮払い

2. 研修部：これからの研修会・観察会について

(1) 9 月までの観察会・研修会の当番について

(2) 5 月 16 日の濃昼古道研修会について

(3) 6 月 9・10 の鶴川の観察会について

(4) 6 月 29・30 の東大演習林研修について

(5) 8 月 4・5 日（土・日）のワッカ原生花園、常呂遺跡について

・ 場所 常呂少年の家（0152-54-2584）

・ 日程

※ 鶴川と東大演習林の研修参加は期日切迫。葉書で会員に連絡する。

3.広報部…エゾマツ 81 号の発行について

4.事務局

(1) フィールドガイドの執筆は、編集委員でおこなう

(2) フラワーソンへの対応について

(3) ボランティア保険加入について

(4) 主催事業のPR活動の工夫

・ ウォッチングガイド

・ 札幌マラソン講座

・ 道のホームページ

・ 環境サポートセンターのTGAL

・ まんまる新聞

・ 「自然観察会のご案内」チラシの配布場所

札幌市区民センター (50部ずつ配布) 中央・北・南・東・西・豊平・
清田・手稲・厚別・白石

西岡水源地公園事務所 50 自然ふれあい交流館 50

札幌エルプラザ 50 札幌環境サポートセンター 50

恵庭郷土資料館 50 北広島駅 50

エドウィン・ダン記念館 50

(7) 研修テーマを設定した下見会の実施 今年度はシダとスゲを中心に行う

(8) 観察会の記録について…観察会后、鳥合わせ、花合わせを継続する

(9) 平成19年度 野幌森林公園内ゴミ拾い事業の実施について

5月22日(火) 9:30~12:00(雨天中止)

実施場所:野幌森林公園内基線沿線(登満別口駐車場から瑞穂口までの間、往復)

※北海道ボランティア・レンジャー協議会は、協力機関・団体のひとつとして登録されている。 田村・三崎・春日が出席する。

(10) 平成19年度 ボランティア・レンジャー育成研修会

9月28・29・30(金・土・日) ボラレンの出番が予想される。

5 その他

(1) 次回役員会 9月10日(月)

V. 閉会



北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ開設

懸案であった当会のホームページを立ち上げることができました。会員の皆さんに広報「エゾマツ」と併せて情報を提供していきたいとおもいます。季節ごとに更新していきますので感想や各地の情報をお寄せください。

ホームページアドレスは下記の通りですが〈ボラレン〉で検索できます。

ホームページアドレス

<http://volaren.sakura.ne.jp>

メールアドレス

mailbox@volaren.sakura.ne.jp

自然観察会のご案内

平成19年5月～7月の観察会の日程です。自然の営みの素晴らしさを感じる楽しい観察会にしたいと思います。どうぞ、お集まり下さい。

恵庭公園観察会

日時：5月20日（日）10：00～12：00

集合場所：恵庭公園駐車場

沢山の美しい花と出会うことができます。なかでも、この場所でのお勧めは、サクラスミレの観察です。

公園内を流れるユカンボシ川の清流に心が洗われます。野鳥のさえずりに導かれコース散策を楽しみましょう。

三角山登山観察会

日時：5月27日（日）10：00～14：00

集合場所：緑花会登山口

この時期、シラネアオイやスミレサイシン、可憐なフデリンドウがコース沿いに咲いています。

大倉山の展望台からの札幌の街並みの一望もお楽しみ下さい。

北広島レクの森観察会

日時：6月17日（日）10：00～12：00

集合場所：レクの森入り口

レクの森は特別天然記念物「野幌原始林」に隣接していて、自然度の高い広葉樹林になっています。

静かな森の中で、サカネランやトケンランなどの観察を楽しみましょう。

初夏の森観察会

日時：7月8日（日）10：00～12：30

集合場所：野幌森林公園大沢口

自然ふれあい交流館

春の林床の様子から夏に変わっています。背丈の伸びた野草、緑濃い樹木、キジバトの鳴き声など、初夏の気配がただよう森の中の散策を楽しみましょう。

芸術の森周辺観察会

日時：7月22日（日）10：00～12：00

集合場所：芸術の森停留所

芸術の森周辺は豊かな樹木に覆われています。真駒内川を見ながらの夏の観察会です。観察会終了後、緑の芝生での昼食や芸術の森での芸術鑑賞も楽しいです。

※事前の申し込みは必要ありません。

※参加費は保険料として、100円を徴収させていただきます。

※事前の情報は下記へ問い合わせてください。

北海道ボランティア・レンジャー協議会事務局

春日順雄 電話 881-4090

藻岩山に想う

井内亮司

私の一日は、朝一番に居間の窓カーテンを開け藻岩山（531m）の山容（北斜面側）を眺めてから始まります。私の藻岩山えは、少年のころ藻岩山の峯を見ながら通学、勉強し春の遠足には藻岩山登りでした。勤めに入り札幌を離れましたが最後は、自然が豊かで美しい藻岩山麓に住んで至福の至りです。

藻岩山は、四季を通じて楽しめる山で、夏は雪友荘側から登り旭山記念公園に下る尾根続きの広葉樹の多いコースで、ミニ縦走気分を味わっています。冬は、慈啓会病院からのコースで、澄み切る晴れ日は、夕張岳・支笏恵庭岳方面の冬山姿を眺望し体力の鍛えも兼ねて登っています。スキーもゲレンデスロープは短いですがコース毎に変化があり、練習をするには充分で超近距離のスキー場として満足し楽しんでます。その藻岩山は、大都市190万人の住む札幌の市街地にあり、自然森林を形成しその樹木の種類も多く、約450種の植物や約80種の野鳥など世界的に見ても市域に原生林に近い天然林があるところは例が少なく貴重とされています。

明治時代から多くの市民に親しまれ保護されてきた藻岩山も、2004年9月の台風18号で、南斜面区域で10ha、北の澤区域で16ha、北斜面（慈啓会）で10ha、樹齢100～300年位の樹木を始めとして倒れ甚大な被害となり、未だ登山コースには倒れた樹木、根株をさらし惨憺たるもので痛々しい限りです。台風の被害を受けた藻岩山も以前とは変わり木々が少なくなり、かなり透けて原始林の姿を失いつつあり、野鳥のカラスも極端に減り自然生態系への影響が懸念されます。さらに札幌市は、今年度より藻岩山の観光事業推進をもくろみ10年度までに「藻岩山を観光のシンボルに再生する」ため約3億円をかけて整備することを計画しているようですが、北海道の第1号の天然記念物に指定されている藻岩原始林、四季折々に多くの人に愛され、美しい魅力のある藻岩山をなんとか保護、持続されることを思うところです。



モイワシャジン

登山観察会(5月27日)に参加して

札幌市豊平区 伊藤和夫

3度目の札幌在住で、遂に待望の「三角山」に入山することが出来ました。円山には、昭和40年代の後半から、これまで、合わせて30数回行っていましたが、三角山には行く機会がありませんでした。

特に近年、西区方面でヒグマの出没の報道が相次いだため、単独での行動を避けていたことも理由の一つです。

開催日の4日前に「北海道ウォッチングガイド」の5月の行事案内で、行事計画を知り、参加させていただきました。

道中、事務局の皆様方から、草木類を中心に、三角山の歴史的背景も含めて丁寧な説明を受け、さらに予測していなかった大倉山までも寄ることができ大変満足して帰りました。

草木の説明では、大半が、名称、種類共初めて見るもので、当然、一度では覚えきれませんでした。

また、間違っ覚えていたものにも気付きました。相当反復しても他人に説明できるまでには到底及ばないので、将来共、説明を受ける立場に徹して参ります。

市中心部の近傍に自然の宝庫が点在する恩恵に感謝し、機会があれば再度参加させていただきたいと思います。事務局の皆様大変お世話になりました。



** フラワーソンの調査の結果に関しては次号で

6月16, 17日に2カ所、定山溪(熊野美子さんが中心)と北広島で行われた開花を中心とした植物の調査の結果については秋季号で報告します。

七飯十景

七飯町 岡村 敏夫

当地を終の棲家と決めて1年余、昨年は七飯町郷土史研究会が主催する七重学校の歴史講座を合わせて9回受講した。座学に加えて郷土の歴史遺産を巡る講座もあって、箱館戦争の遺跡の一つ七飯町峠下台場跡や函館市南茅部の縄文遺跡（この遺跡から出土した中空土偶が北海道で初めて国宝に指定される見込み）等を見て回った。これら野外講座はボラレンの自然観察会に似たところもあって、講師または受講生の中にそれぞれの専門家がいて道みち、樹木・草花・野鳥等の解説が即席に加わることも度々である。

ところで趣味のカメラを活かし、今年の3月に開催された郷土史研究会の定例の研究発表会で「歴史と景観—私の選んだ七飯十景—」を発表した。函館に隣接する七飯町は北海道開拓時代の歴史遺産が多い。

「景観」とは単なる景色にとどまらず、人との係わり合いのある風景・景色と言える。景観を創り出すの

は主に地理・地形、気象・気候と言った自然であるが、これら自然に適合した長年にわたる人間の営みが景観に及ぼす影響も想像以上に大きいものがある。人間の営みの一つ、「歴史」が景観をより味わい深いものにしていることを、七飯に住んで歴史講座で学んで改めて認識させられた。

七飯十景は一景ごとに写真1枚と170文字以内の解説文で構成されている。順番に挙げると七重官園跡、横津岳、ミルクロード、駒ヶ岳、大沼公園、赤松街道、峠下、城岱スカイライン、フルーツロード、日暮山の十景である。

メインタイトルにある「歴史」との係わりは開拓時代の名残を留める、あるいは開拓時代に起因する「北海道で初めて」的なものが多いが、横津岳や駒ヶ岳のようにその歴史を地質年代まで遡るものもある（火山の噴火）。ここでは十景の中から樹木景観がポイントの赤松街道と山岳景観がポイントの横津岳の2景を紹介したい。

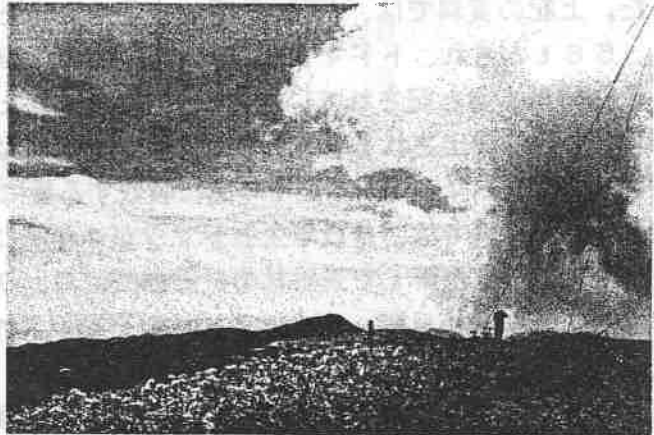
赤松街道：アカマツ、常緑の高木、命名の由来にもなっている赤褐色の樹皮が特徴。



国道5号線・赤松街道（七飯町鳴川町）

本州以南に分布するが道南の一部にも分布。国道5号線の函館市桔梗町から七飯町峠下までの14.3kmの区間に樹齢100年以上のアカマツ1,258本、クロマツ91本、ケヤキ、スギなど70本が街路樹として連なり、赤松街道と呼ばれている。この松並木は明治6年(1873年)に新生北海道の道都札幌と箱館(当時)を結ぶ札幌本道(現在の国道5号線)の完工を期して、明治9年(1876年)の天皇行幸を記念して植えられたもので、今では鬱蒼と茂ったアカマツの樹冠で天空が覆われる赤松街道は、特に「いにしえへのタイム・トンネル」を感じさせてくれる。この区間の国道には「赤松街道」の命名のほか「北海道の名木美林」、「日本の名松100選」、「日本の道100選」、「新・日本街路樹百景」、「歴史国道」などに選出・認定されている。

横津岳：標高1167m、ピークが七飯町にある正真正銘「我が町の山」。およそ100万年前、両隣の七飯岳、袴腰岳と共に火山活動によってできた。横津岳の南西山麓に広がる七飯町の中心市街地は横津岳の砂礫が流れ下って形成された扇状地の上にある。肥沃な土地は果樹園(七飯はリンゴ栽培の始まりの地とされ現在もリンゴ園が多い)、畑地として、豊富で良質な湧水はワイン工場や電子機械部品工場で利用されている。



横津岳山頂から袴腰岳、遥か遠くに恵山を望む

今年(2023年)の4月、横津岳から袴腰岳にかけての一带が恵山(えさん)道立自然公園に編入・指定された。高層湿原に特徴づけられる稜線

は眺めも抜群で花の季節にはハクサンチドリ、ワタスゲ、エゾカンゾウ等の高山植物のミニお花畑が出現する。横津岳へは函館市の新中野ダムから袴腰岳を経由するルートと七飯町の旧横津岳スキー場からの二つのルートがある。後者は標高990m付近まで車で上ることができ、車止めのゲートから山頂まで続く約1時間の舗装道路歩き(レーダー施設等の作業道路)は少々、興ざめであるが山頂からの眺望は文句なく素晴らしく、駒ヶ岳はもちろん視界がよければ北はニセコ連峰・羊蹄山等々、南は本州、津軽・下北の山々を見渡すことができる。

赤松街道、横津岳とも車で簡単にアクセスできるので、道南・函館方面に来訪の際には是非、足を伸ばしてその景観をお楽しみいただきたい。

最近、新聞やテレビ等では毎日とっていいくらい、温暖化に関する報道がなされています。なかでも、温室効果ガスの大半をしめるCO₂の影響が大きいとされています。

ちなみに、6月上旬に開催された主要国首脳会議（サミット）の議題も、温暖化対策を中心に話し合われました。

CO₂は植物の光合成にとって欠かすことのできないものであり、地球上に排出されるCO₂総量の50%程度を森林が吸収しているともいわれています。

このようなことから、森林のもつCO₂の吸収量とは具体的にどのようなものなのか、北海道水産林務部森林計画課の資料（森林のもつ二酸化炭素吸収・貯蔵機能について）に基づき考えてみました。

はじめに、私たちの生活から排出されるCO₂はどの程度あるのか調べてみました。上記の資料では、（1）生活による一人当たりの排出量は、炭素重量で3.56tとされ、トドマツ830本（1.2ha相当分）が1年間に吸収する量に相当すると記されています。（2）一人当たり年間呼吸は炭素重量に換算して80kg排出されるとされています。この量は太さ20cm、高さ20mで50年生のトドマツ19本が1年間に吸収する量に相当するとあります。

また、別の資料では、50年生トドマツが1年間に吸収するCO₂の量は1ha当たり1.9炭素tで天然林の針葉樹では0.7tとされています。さらに貯蔵量はそれぞれ88.4t、78.2tで手入れの行き届いた人工林での吸収量や貯蔵量の多いことがわかりました。

私たちが解説活動をするとき、このような話題を参加者に提供し、関心を高めてもらうようにすることも一つの手法ではないかと思えます。

道・森林計画課のホームページの解説文を引用すると「森林はその成長のなかで、大気中の二酸化炭素を吸収し、幹や枝等に長期間にわたって蓄積するなど、二酸化炭素の吸収、貯蔵庫として重要な役割を果たしている。温暖化対策では今ある森林の中にできるだけ多くの二酸化炭素を貯蔵できるよう森林を守り育てていくことが重要である。さらに木材製品を長期間にわたって使えばその間二酸化炭素を閉じこめておくことができ、大気中の二酸化炭素濃度の上昇を抑えるのに役立つ」とされています。

「温暖化対策として私たちに何が出来るの？」この引用文を大いに利用させて頂きたいものと思いまとめました。

CO₂は化石燃料の消費によって発生するといわれています。産業革命以降大気中のCO₂は30%も増えてしまったといわれています。

小樽オタモイ、赤岩山観察会

07、4、28実施、小樽支部、北原 武

季節の変わり目は、ある日突然やってきて皆を驚かせる。私の近所では、梅と桜と一緒に咲くのが当たり前の光景になった。

冬の蓋があいで、皆が緑に待ち焦がれているので、春の観察会はいつても多数の参加者でにぎわう。本日は43名で、受け付けがてんでこ舞いになった。大勢来てくれるのは有り難いが、その中には、山歩きの未熟な人が居るもので、しばしば悩みの種になる。この日89歳の男性と初めて会い、運動戦姿を見ただけで私は不審にかられた。娘さんが付いているので、問いただすと当然の如く、大丈夫を繰り返す。この場で断る訳にも行かず出掛けだが、祭の定本日の最高地点352m峰の山登りであごを出し、山の経験者に付いてもらい行動を続けた。早くから、途中で帰すべきだとの意見もあつたが、既に最高地点に近づいているし、何とか歩かせたいとの願望もあり、歩行を続けた。残雪で滑ったり転んだりを繰り返しながら、結局は、二人掛かりで老人を支えて、赤岩峠まで辿り付いたが、予め呼び寄せたタクシーに乗る時は、足腰が硬直し、体が痙攣していたという状態であつた。

これまで頑張る意欲には感心するが、担当リーダーとしては、割り切れないものが残った。以後は、未然にこのような事態を防がねばならないが、初参加の人に付いては、特に次の点を留意したい。

- ①、申し込み時に、直近の登山経験を聞き、体力、靴、服装等に不審のある方は、出来るだけ遠慮してもらい、次回にぞなえる。
- ②、一人が、二人以上同時に申し込む場合、夫々の人の、①を確かめる、それが不明の時は、本人から申し込んでもらう。因みに、今回も娘さんからの申し込みで、年配者の参加は聞き漏らしていた。
- ③、受付時に参加者の靴、身支度等から、不審のある人は本人と話し合い、必要があれば、途中で中断する方法も考え（ない場合は、付き添いを付けて引き返す）本人にも伝えておく。



会員の皆様にも、多かれ少なかれ、この種の経験があろうかと思えます。そんな時の話をお聞かせ下されば幸いです。

以 上

塩谷丸山自然観察会

小樽支部 大川良祐 (2007, 5, 5)

塩谷丸山(629m)の自然観察会は毎年実施していますが、今年は春に実施いたしました。

参加者は30名、ボラレン本部から田村会長はじめ成田さん、高松さん、室野さんが応援にきてくれました。見どころは春植物です。麓には、まさにこの時季だけのカタクリ、エンレイソウ、キクザキイチゲ、エゾエンゴサク等がかたまって生えていて皆を喜ばせてくれました。

野幌森林公園ではキクザキイチゲ、ホソバエンゴサクをあまり見かけないようですが、この山ではヒメイチゲ、キバナノアマナ、ニリンソウを見かけません。それぞれの地域によって春の花の種類が違う面白さがあります。

400メートルを越えたあたりから雪解け水によりぬかるんだ登山道となり、頂上近くでは雪原となっていました。そんなあたりで下見で見落としていたエゾノイワハタザオを見せてもらい感激しました。

頂上は風が強く、寒く感じられ、食事をしているうちに、出てきた霧に追われて山頂を後にしましたが、麓にもどると又晴れになっています。

野鳥ではアオジとシジュウカラを見かけましたが、エゾライチョウを見つけた方もいました。頂上で撮った記念写真では実に皆さんがいい笑顔をしていることに後で気が付きました。



各地での自然観察会に多くの市民が参加

広報部

今年は、共催している野幌森林公園での自然観察会、我々が独自に企画する自然観察会にも例年になく多くの市民が参加してくれているようである。これは事務局が精力的に情報活動を行っていることにもとづくものである。更には21周年目をむかえ成人をはたし大人になって市民権を得たことによるものかもしれない。詳しくは別の号で報告することになるが、独自に開催した5、6月の3つの観察会の報告を簡単にしたい。

* 恵庭観察会（5月20日） 今年参加者10名（昨年6人）、会員5名
計15名

- ・いくつかの華麗なスマレを観察する。なかでもこの公園では葉も大きく、花も大きいサクラスマレを観賞することができた。
- ・解説をしてくれた小林さんの該博な知識によるわかりやすい説明はさらなる自然観察への誘いをうながすものであった。

* 三角山登山観察会（5月27日） 今年参加者8名（昨年1名）会員9名
計17名

- ・今年は8名にも（8倍にとも）登山観察会は難しい一面をもっていることもあるが。
- ・めずらしいワニグチソウ、ユウシュンランなどを観察し、大倉山では多くの日本タンポポに出会った。スマレサイシンの花が見られなかったのは残念であった。
- ・見晴らしもとてもよく、日高山脈まで遠望することができた。

* 北広島レクの森（6月17日）
今年参加者21名（昨年14名）、会員7名
計28名

- ・前日の16日、会員8名が参加して下見と北海道道開社の法人、野生生物基金が主催するフラワーソンの植物調査を行う。豊かな植物相に感心。
- ・いくつかの貴重なランの植物に出会った。
- ・参加者のなかには博識な人たちが多くとても教えられた。相互に学び合うことができ観察会の理想的な形態であった。

レクの森での観察会

初夏の植物たちの輝きを!

6月17日
(日)
9:20
30分

7:00
駐車場
無料
100円



新ノリイン記協会
阿部北 札幌 393-6280

ワッカ原生花園

98.6.12. 18

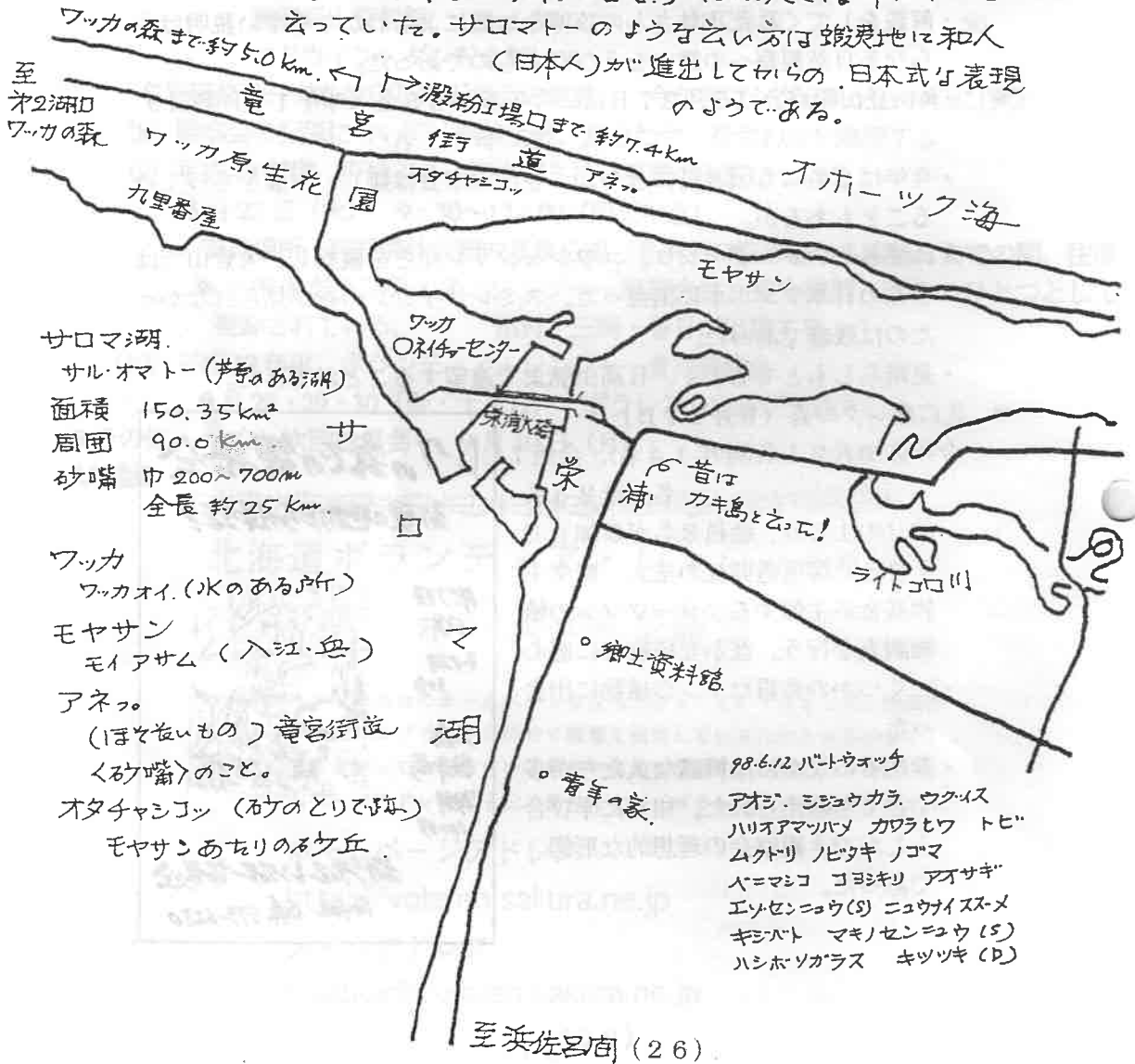
オホーツクの語源

(青田昌秋「オホーツク海語考」, その他)

- ① 沿海州にオホタ川があり、先住民のエバン族の人々はこの川をオカタと呼んでいた。オカタとはエバンの言葉で「川」のことである。17世紀ロシアの進出があり、オカタ川はロシア風になつてオホタ(okhota)となった。ロシア語では名詞+skで地名をつくるが、これにならつて okhota は okhotsk オホーツクとなった。
- ② ロシア語にオホタ(狩猟)という語があり、これに由来する。
オホーツエコ・モーリエ (狩猟する海)
- ③ ツングース語のアホート(大きい)に由来する。

トー(湖)について

サロマ湖など湖や沼を、アイヌの人々は単にトーと云っていた。サロマトーのような言い方は蝦夷地に和人(日本人)が進出してからの、日本式の表現のようである。



サロマ湖.
サル・オマトー (芦花のある湖)
面積 150.35km²
周囲 90.0km
砂嘴 巾200~700m
全長約25km.

ワッカ
ワッカオイ。(氷のある所)
モヤサン
モイアサム (入江・島)
アネッ。
(ほやほやいもの) 竜宮街道
<砂嘴>のこと。
オタチャシゴッ (砂のとりで跡)
モヤサンあたりの砂丘。

98.6.12 バルトウエツチ
アオジ、ミジウカラ、ウグイス
ハリオアマツバツ カワラヒワ トビ
ムクドリ ノビツキ ノコマ
ハニマシコ コヨシキリ アオサギ
エソセンノウ(S) ニコウナイスノメ
キジバト マキノセンシユウ(S)
ハシボソガラス キツツキ(D)

(1995~1997 エコウォーク)

アキノキリンソウ アイヌタチツボスミレ イタチハギ¹ イタヤカエテ イタケフウロ
 ウンラン ウシケクサ ウスハニツメクサ エソタンボボ² エソカラマン エソフウロ
 エソノコリンゴ³ エソノスカシユリ エソノコウホウムギ⁴ エソノツルキンバイ エソノキジギシ
 エソノカワラナテシコ エソノシシウド⁵ エソセンテイガ エソノヨロイサ エソヤマサクラ
 エソオケルマ エソニワトコ エソオオヤマハコバ⁶ エソタドリ オトコヨモギ⁷ オカヒジギ
 オオヤマフスマ オオツリバナ エソオオハコ オオヨモギ⁸ オニツルウメモドキ オオハコ
 オオカサモチ オオススメノカタヒラ オオアワガエリ オオハナウド⁹ オオダイコンソウ
 オオハスノキ オドリコンソウ オオウシケクサ イヌエンジュ エソヤマハギ¹⁰ オオアキ
 オオハナエンレイソウ カワラマツバ¹¹ カラマツ カシワ カワラホウフウ カモカヤ
 カセンソウ キタノコキリンソウ キンミスヒキ クサノオウ クサフジ クロハガハシヨウヅル
 クマイササ コウソリナ コホウ コウホウシバ¹² コメカヤ コハコバ¹³ スミレ
 シルバ シロヨモギ¹⁴ シロバナシナカワハギ¹⁵ シロツメクサ スズメノヤリ スズラン
 スズメノカタヒラ センタイハギ¹⁶ センキ セイヨウタンボボ¹⁷ タラキ タヤシノスゲ
 タタオランタケ¹⁸ タシマドショウツナギ¹⁹ ツリバナ ツレキシムシロ ツリカネニンジン
 ドロイトトマツ ナカハタサ ナワシロイタゴ²⁰ ナカハキジギシ ナカマド
 ナスナ ナミキソウ ナンテンハギ²¹ ネムロスゲ ネナシカスラ ハマハタサオ
 ハタサオ ハマナス ハマエンドウ ハイネズ ハマニカナ ハマニンク
 ハマハコバ²² ハマハンケイソウ ハマホウフウ ハリエンゴ²³ (ニセアカシヤ)
 ハルサキヤマカラシ ハチショウナ ハマヒルカオ ヒメイトケ²⁴ ヒエスゲ
 ヒレハリソウ ヒカケスゲ ヒメムカシヨモギ²⁵ ヒロハクサフジ ヒメイズイ ヒメスバ
 フクジュソウ ハラオオハコ ヒオオギアヤメ ホテルサイコ ホツバノハマアカサ
 マノハトウキ マイスルソウ マメクサハイナスナ ミズナラ ミミナクサ
 ムラサキマンケイソウ ムラサキタンボボ²⁶ (センボンヤリ) メマツヨイスサ メシタ
 ミヤマサクラ ヤブキタンボボ²⁷ ヨブスマソウ ヤマナラシ ワラビ

99.6.12.

ツルウメモドキ、ヒメイズイ、セイヨウノコギリソウ、
 ミヤマハンショウツル、カラフトニンジン
 ミツバハンケイソウ



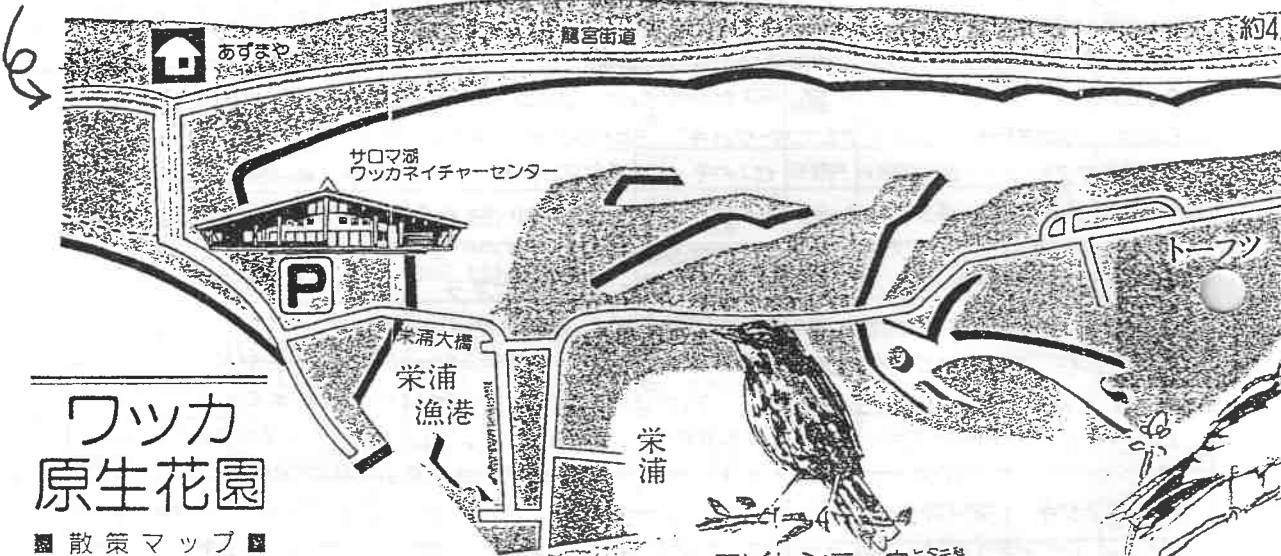
旧湖口。昔サロマ湖の水の出口は、この旧湖口しかなかったが、湯別側の人達が舟の出入りが不便なと湖口をむらいた(堰)新湖口。このため湖の水位が下りて、ついには古い湖口から水は流出しなくなった。

*土佐、岐阜は南拓省の出身地である。そのまじ常呂町の地名にある。

麦の風文庫

第8号 1995.6.23
北見市寿町4丁目1番6号
伊藤公平
Tel. Fax. 0157. 24-7341

下図 石はし(*印)につながる。



ワッカ 原生花園

■ 散策マップ ■

この夕日、もち出し禁止です。
感動をテークアウト、ワッカの夕日。
サロマ湖とオホーツク海と空が原色に燃えあがる夕日のドラマ。黄金色と鮮紅色のグラデーションが宇宙のかなたにまでひろがっていきます。鳥も原生花園も、このダイナミックなサンセットショウの出演者。あなたの目と肌で感じるワッカだけの劇的瞬間。残念ながら手にとってごらんできません。

エゾセンニュウ ヒタキ科 夏の渡り鳥

その名のとおりに草むらに「潜入」しているのが見つけにくい。スズメより大きく、夕方からトッピンカケタカと似たなましくさざる。オオヨシキリよりも茶色が長く、尾の先は円形。

シマア ヒタキ科

特に道東やきこ、雄は全体に色は白帯のま

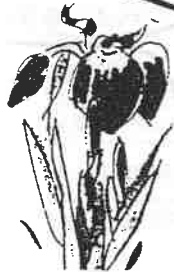


ワッカの森公園

花の聖水
ワッカの水



あずまや



ヒオウギアヤメ アヤメ科 花期6-7月

花は紫色。草丈30-90cmで湿原に群生する。葉は長さ20-40cm、幅1-2cmで、平たく扇を開いた形に並ぶ。花の茎は枝分かれし、数個の花をつける。

センダイハギ マメ科 花期7-8月

花は黄色。草丈は10-80cmで海岸の草原に群生する。花が咲きそろった頃は海岸に黄色い帯が数知れず乱舞しているように見える。



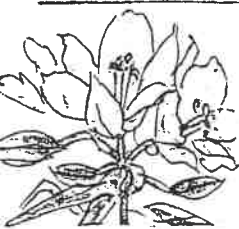
オオワシ ワシ科 夏の渡り鳥

海岸や湖沼で生活し主に魚を食べる。1994年天然記念物に指定、全身が黒褐色で首と尾が白く、くちばしが鮮やかな黄色をしている。

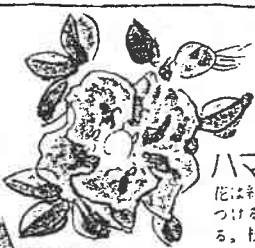


ノゴマ ヒタキ科 夏の渡り鳥

日本では北海道だけに繁殖する。スズメより少し大きい。体はオリーブ色で、雄はノドが赤く、雌は白く、尾をピンとあげてさざる。



エソスカシユリ ユリ科
花期6~7月
赤っぽいオレンジ色で、3枚の花びらとがくには黒い斑点がある。上から見ると花びらの間に透き間があるのでこの名がつく。



ハマナス バラ科小葉木
花期6~10月
花は紅色または白、ミニトマトのような実をつける。ワッカでは広く分布し、群落をつくる。枝にトゲがある。北海道の花に指定されている。



注意
ここから先は自然保護専用道路です。緊急車両などを除き一般車両（バイクなどの二輪を含む）は乗り入れが禁止されています。

止むくはに クルマモ
あいて、歩きます。

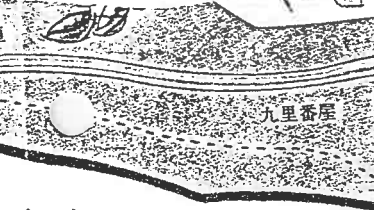
ヤナギラン アカバナ科
花期7~9月
花は紫がかったピンク。葉が柳に似て、ランのように美しい花をつけるのでこの名があるが、ランの仲間ではない。実は熟すると白い毛をつけた種を飛ばす。

ハマハタザオ アブラナ科
花期5~9月
花びらは4枚で真っ白、20~40cmの高さで大群落をなす。砂浜に立てられた旗ざおのように直立することから、この名がある。

ハマエンドウ マメ科
花期5~8月
花の色は赤っぽい紫、または白。砂地から斜めに立ち上がる草丈は20~60cm。豆のさやは約5cmで、昔は食用にもされた。

カシワ ブナ科
落葉高木
北海道では海岸地帯に多く、ワッカのカシワ林は有名。樹皮は黒色で厚く、深い割れめができる。葉はさかさ明形、ドングリになる。

オオハクチョウ ガンカモ科
鳥の渡り鳥
シベリアから渡ってくる。全身が純白で首が長く、くちばしが黄色い。幼鳥は灰色。コーコーと長く響く声で鳴く。



新たに78種を確認

ワッカ 原生花園 植物環境調査で

【常呂】町は、ワッカ原生花園の植生環境調査を実施し、このほど結果をまとめた。平成元年に次ぐ第二次調査で、新たに十一科、七十八種が確認され、同花園は三百種を超えた。

原生花園の調査は昭和六十三年から平成元年にかけて、観光客の入り込みが植生環境にどう影響を及ぼすかなどをテーマに実施された。今回はこれを踏まえ、平成三年に車両通行規制をスタートさせた効果を見るため、昨年六月と七月の二回に分けて現地調査を行った。この結果、牧草種や雑草類に減少傾向が見られた。車両の規制に伴うものの判断は難しいが、町は保全対策の実効性があったと評価している。今後も草刈りや野焼きなどの保全対策、講演会などを通じた環境教育、引き続き調査、研究を図るなど原生花園の保護に努めていく方針だ。

また、今回の調査で植物目録として新たに十一科、七十八種が確認された。前回調査で五十六科、二百三十種が確認されており、これだけで三百種を超えた。

内訳は、シダ植物六科八種、裸子植物二科四種、被子植物双子葉類の離弁花類が三十三科百四十三種、同合弁花類十七科七十四種、単子葉類九科七十九種となった。

※ 上図 左はしよりつづく.....

観察会に参加して

弗田 成子

6月3日の観察会に参加しました。

森林公園を散策するようになって、3年、観察会への参加も今回で3回目です。

いつもは、雪解けを待って、5月の花いっぱいの森を楽しんでいましたが、今年は、もたもたしているうちに、6月になってしまい、アー あれもこれも見逃した！と思いつつ 参加しました。

当日は、天気 快晴、気温も高く、エゾハルゼミの大合唱の歓迎を受けての出発です。草丈も伸びてうっそうとしつつあるなか、バイケイソウが、可憐な花をつけていました。今年は、バイケイソウの花のあたり年と聞きましたが、今まで 葉っぱばかりで、花を見たことがなかったので、大変印象的でした。

白いコンロンソウと、足元に黄色いエゾヘビイチゴの花。そして、「蘭」。

6月は、蘭を楽しめるんですね。 感激です。

艶やかなノビネチドリ、ちょっと横向いた サイハイラン、そして可愛いコケイラン。一人で歩いていたら、見逃していたでしょうね。ちょっと趣の違う花を発見でき、散策の楽しみが、倍増です。

まだ、花の名前を覚え始めたばかりの私には、教えてくださる方が付いての散策は本当に楽しいです。草花の名前の由来や、どこに注目して見分けるのか、大変参考になりました。

楽しい時間は瞬く間に過ぎ、帰り道。「この声、ヤブサメですよ」 鈴の音のような、ちょっと虫の声のようにも聞こえるこの鳥のさえずりを聞きながらの帰路でした。

近頃、膝、腰が少々難有りになり、月に一、二度 一、二時間程度の散策を楽しんでいます。こんな身近に、自然いっぱいの公園があることに、感謝です。

数年前の風で、被害を受けた場所も、今年は、土が目立たなくなり、今後どのように再生されて行くのか、楽しみです。

又機会ががあれば、観察会に参加し、新しい発見を楽しみたいと思います。

同じことを何度もお聞きしたりすると思いますが、どうぞ懲りずにご指導ください。

又、 貴重な時間を割いてくださり、ありがとうございます。

おわり

コケを訪ねて

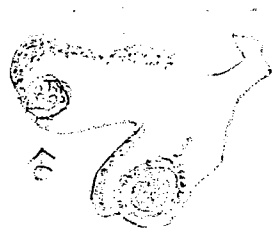
札幌市 吉田 政徳

森の中に一歩足を踏み入ると、しっとりとした空気が頬を包みます。溢れるような初夏の緑から活力を与えられ、コケたちは生き生きした表情で私たちを迎えてくれました。これらのコケたちは自然の中で大きな役割を果たし、私たちにも何らかの関わりをもっています。

*エゾスナゴケ—こんもりとした黄色いサンゴ—
日当たりのよい砂質の土や岩の上などに黄色い大きな群落をつくります。茎と葉をもつ直立する茎葉体です。葉のふちはそり返り、中肋は葉先まで伸びています。このコケもギンゴケと同じように、人間臭が好きなようで人家の近くに生えています。交流館の玄関の右側に見ることができます。葉は乾くと縮まり、湿めるとそり返ります。晴れた日に指先につけた水滴を近づけるとダイナミックな動きを見せてくれます。コケ庭の材料になっています。保育社の図鑑ではスナゴケと記載されていますが、ここでは平凡社の図鑑に従いました。このコケは蘚類のギボウシゴケ科です。



*ジャゴケ—整然と並ぶ鱗模様—
湿った土や岩の上などに生えています。緑色をした平べったい葉のようなもの（葉状体）をもつコケです。六角形の模様がヘビの体表に似ていることから、蛇ゴケと名付けられました。大沢口の石碑の土台右側にしつかりと張りついています。中国ではこのコケやゼニゴケを他の植物油と混ぜた軟膏がおできや虫刺されに効くとして売られているそうです。このことは中国の故事によるとされています。
「昔、名医が診察に出かけたとき、一人の女性が泣いていました。訳を尋ねるとハチに刺されたというので、名医はすぐにコケを貼りなさいと教えました。数日後、名医に女性はコケを貼ったら治ったことをいい、お礼を告げたということです。（長谷川次郎「薬になるコケの話」）最後にこのコケを紹介するとしめくくりとして効果的です。このコケは苔類のジャゴケ科です。」



ジャゴケ

*ゼニゴケ—人間に嫌われる不憫なコケ—
予定にはありませんでしたが、このコケを訪ねないわけにはいきません。人家の北側の畑や庭の湿った土などに生えています。

緑色をした葉状体で葉のふちは波打っています。雌雄異株で円盤状の雄の寝床（雄器床）と掌状の雌の寝床（雌器床）は別々の葉状体につきます。強い繁殖力を持ち植物の侵入を許しません。そのせいででしょうか、人間に嫌われているようです。

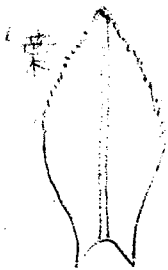


ゼニゴケ

このコケは精子の研究に役立つなど大切な働きをしています。名前の由来は雄器床の形が銭の形に似ているからだという説があります。雌器床は一週間ぐらいで消えてしましますが雄器床は遅くまで残るので盤状の雄器床からジャゴケと区別がつきます。このコケは苔類のゼニゴケ科です。

* コツボゴケー可愛い葉をつけて伸びるコケー

やや日陰の地上や腐木の上に群生しています。茎はつる状に伸びて地上をはいまず。(匍匐茎) 茎の先が地面について根(仮根)を出し、ここから新たな芽を出して広がります。葉は卵形をし先がとがります。葉のへりの上半分に歯をもっています。葉は中央部の幅が最大で先の部分とつけ根(基部)の部分がせばまっています。中肋は葉先まで届きます。雌雄異株に直立した茎の先に雄器盤をもっています。胞子の



の入れ物(蒴)も茎の先につき3cmぐらいの柄もち、円筒形をして垂れ下がっています。

低地から山地の地上や岩の上にも生えています。大沢口から50m程入った右側の倒れた腐木の上に見ることができます。街の中では旧道庁南門右側にあるゲンペイウツギから、やや東寄りに10m程池に向かった所に生えています。近くにナミガタタチゴケの群落もあります。

名前の由来は私には分かりませんが、多分、小坪ゴケかと思えます。坪とは小さな庭という意味でしょう。このコケもコケ庭に広く利用されています。また、葉緑体の研究にも使われています。

このコケは蘚類のチョウチンゴケ科です。この仲間は蒴のつき方が提灯を下げている様子からちょうちんにみたてたものといわれています。

参考図書 「魅力あるコケの世界」 歴史春秋社
「コケ類 研究と採集・培養」 加島書店

次はネズミノオコゲ、コスギゴケ、ヤマトフデゴケ、ナミガタタチゴケを訪ねます。

記紀の中の植物(面白い話) II

成田 伸一

古事記神代記序文に、葦牙の如く回萌騰る之物ありが葦と解釈され、歴史書の第一に記録された植物は、通常は葦となうています。

しかし、一部は葦牙の如くは葦の様な物として『ガマ』であるとの解釈もあるようです。ガマは、ガマ科 (Typhaceae) ガマ属 (Typha, 沼)の多年生、大形水生草本の植物で日本全国の池沼、湿地等にごく普通に自生していて、古い時代より人々の生活を支えてきたきわめて馴染み深い植物でこ子此処に、歴史書登場の第二としてみました。

泥中をほふくする根茎は白色で、枝分れの芽の部分はたけのこように食用に利用された。植物学的記述は省略して、花の部分は矛状で上の部分は雄花、下部の雌花は御存知の通り、雄花は秋には黄色い花粉を出す。俗にこの花粉を「蒲黄」と呼んで昔より種々の目的に利用している。雌花には多数の長毛に囲まれた一本の雌しべがあり、晩秋の頃墜して遠方に飛散する。この雌花が多数集まって円柱状の雌花穂を形成しているが、この状態を俗に「蒲穂」(カマホコ)または「蒲穂」といっている。

『大言海』に「カマ、蒲、組の転にて組みてムシロとすべきものの意といわれる。コモも組みの転にて同語根ならむ」とガマの語源について書かれています。

なお、古事記伝に「今人は加(か)を濁って賀麻(がま)といえど、凡て頭に濁音なし。今も蒲生などの地名などは、清を以って古を知るべし」とあり、古名「カマ」であったのがいつしか「ガマ」となって今日になったようです。

昔、中国でもこの葉で敷物を編み、これを「蒲団」と呼び、これが蒲団の始まりで、後に用途別に分類し、座蒲団、掛蒲団、敷蒲団に分けて用いるようになった。次に人類の知恵は一枚のムシロやコモより、これを二重にしその間に蒲綿や枯草を入れて保温を良くするように工夫して、これが現代の蒲団の原形である。

今は、フトンが普通、布団と書きますが、語源的にいうとこれは当て字で誤りである。フトンの材料から考えると当初は蒲団の方が正しいのかも知れません。

『和漢三才図会』によれば、「香蒲、甘蒲、和名加末、蒲黄、蒲穂—武士の棒杵のごとし故に俗に蒲穂—その花の芯屑、これを蒲黄といい、蜜を以ってこねて果食を作りて貨売(うる)香蒲の花の状銚(コブ)に似たり、故に蒲銚(カマボコ)といふ。松明に作りて良好。蒲黄を採りて薬に入れる。今多く海鰻の魚肉をこそげ取り竹管に煉るつけ煉銚の形にあぶれば、即ち、焦黄色に為りさもにたり。故亦之を蒲銚と名づく」とあります。

昔は、現在と比べれば、極端に甘味料に乏しく、お菓子といえば、主に木の実であったので、果子と書き、近世になり木の実と加工品と区別するため、果物と菓子と分けて書くようになったという。

現在我々が食べているカマボコは、最初は魚肉を竹や棒に巻きつけるか、焼りつけて焼いたものが蒲穂または蒲鉾に似ているものでつけられたもの。その後、改良された板付きの半円形のものがカマボコの常識になり、そして現在のチクワの方に昔のカマボコの幻影をとどめているよう。

鉾とは、本来は武具として槍の前身で、イザナギ、イザナミノ命が高天原より造化三神より命ぜられて持参した「天の沼矛(アマノヌボコ)」であり天の浮き橋より天の沼矛を青海原をこうろこうろとかき回して引き上げると、矛の先からしたたり落ちる潮が次第に積もり固まって、島となった。名づけてオノコロ島である。

此処で留意したいのは、オノコロとは、オノ(己)でありコロ(転)を意味し、この事は地面が動いていると意味しています。西洋文明社会では、天動説で始まってきましたが、吾が国日本は、地動説が神話の中でも理解されていたのでしょうか。

この事は6,700年代になって、熊野、紀伊半島より修行僧の多数が別天地極楽浄土を求め遭難、行方不明となった歴史となりました。話はもどり、矛とは銅で作られた槍のような武器で、柄の部分は木で作られたもの。後には、槍、なぎなたになったものです。

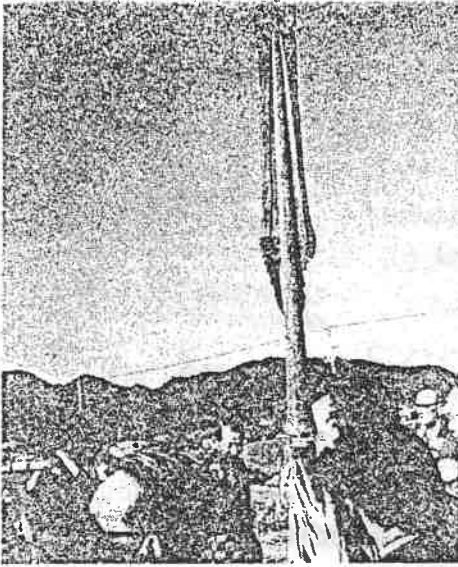
森浩一氏著、日本神話の考古学の中で、日本各地の古墳より多数出土とありますが、四国の窪川町(現四万十川市)四万十川の河口近くの高岡神社では、夏の祭礼には、その行列の中に二米をこす長大な矛が参列し、弥生時代のもので五、六本あり祭りにはその中の一本を参列者がかついでいるとの事で、柄は江戸時代に作り替られたものだそう。

話はカマボコに戻り、鰻を平割にして焼いたものを蒲焼として名残りを留めています。『本草綱目』の中に、蒲黄一気味甘し、平らにして毒なし、心腹、ぼうこうの発熱、小便を利し、血を止め、おけつを消す、久しく服すれば身体を軽くし、気力を益し、天年を延べ、神仙となる。『和漢三才図会』には、舌はれて口に満ち、重舌そうを生ずる者、これを伝え、即ち治ゆとあり、大国主命の稲葉の素戔の話にも登場しています。

この有効成分は、主にシトステロールで収れん性止血薬で内服、外用に効果があります。

何れにしても、ガマはアシと共に人々の日常生活の中で、極めて高い利用性の植物である事は間違いなかった様です。

アメリカ人ジャーナリスト、チャールズ・スキナー氏の著書、花と神話と伝説、の中では日本神話の中で最初に記録されている植物として、ガマが採用さ



高岡神社の祭礼で使われている銅矛

れて居ます。

しかし、彼の著書は、膨大な量の割には、間違いの多いのも事実ですが、歴史、由来の参考には、多数の人が利用されています。

記紀の中の一、二番は別にして、古代から人類に貢献して来た事に留意したい。

次号81号（10月末発行）には2つの特集を組む

1つは夏の富良野の東大演習林での研修について

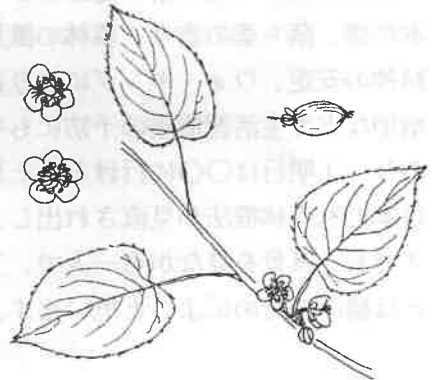
今年で東大演習林での研修も4年目をむかえ多くの成果をつくりだしてきた。そこで、いろいろな角度からそれらの成果を整理するためにも特集を組みたい。

2つは地球温暖化対策について

ゴア氏制作の映画「不都合な真実」にあるように温暖化による自然破壊は世界各地で急速に進んでいる。今回の機関誌でも会長の田村さんが温暖化の状況についてふれられている。そこでみんなで論じていきたい。

- # 自分が地球温暖化に対して取り組んでいること。
- # 地球温暖化対策についての提言 などいろいろな視点から。

皆さんの原稿を待っている！



癒しのこと

苫小牧市 谷口勇五郎

転勤に伴い転居した時、始めにすることの一つに、生物の発生（受精卵から始まり、どういう順序で成長するか）の様子を見せるのに適当な教材として、エゾアカガエルの卵を探すことでした。



もう17年も前のこと、4月初め苫小牧に来て、カエルの産卵場所を探しに出かけました。いくつかの道を探したあと、たまたま苫高専の前を通り高速道路の下を過ぎ、時々車を止め、窓を開け、カモの声に似たカエルの産卵時の合唱に耳を澄ますのです。錦多峰川に架かる橋を過ぎて50m程進むと、合唱が聞こえてきました。離農跡地で古い建物がいくつか残り、入口の近くに直径2m程の落ち葉や小枝の浮いた井戸があり、いくつかの卵塊とカエルが数匹いました。2つの卵塊があれば1年分は間に合います。その後時期がくれば卵をもらいに行きました。橋から川岸に沿って車をよせて置ける場所と車が一台通れるほどの道がありました。時々、川岸に駐車して植物やキノコなどを採取していましたが、川岸の道は往復3Kmぐらい、護岸工事もされており、小さなダムがあったり、岸辺を歩くこともできました。自宅から7.5Kmあり、人影はめったになく、一人で川のせせらぎや風のそよぎを感じ、小枝や葉っぱのゆらぎを見、遠くをながめたり考えごとをして道や岸辺を歩けば、落ち着き、爽快な気分になりました。中でも、ブロックを敷いた小高いところに立ち、回りを見て誰もいないのを確かめ、歌うのは一流の歌手になった気分になりました。勤めのストレス解消にもなり、「もう一週間がんばれるぞ」という気力が出てきました。

今では様子が変わり、離農跡地は自由に入れなない施設になり、井戸はありません。川岸に車は入れなくなり、ブロックを敷いたステージは巨大な泥流止めの施設になりました。勤めていた10年間、土曜か日曜はそこに出かけました。

昨年11月、「森林浴と健康」という題で予防医学の先生の講演を聞きました。木の葉、落ち葉の香り、森林の風景、フィトンチッドによるストレスの軽減、精神の安定、ウォーキングにより森の空気をたっぷり吸い、消費エネルギーの増加などで生活習慣病の予防にもなります。冬でも自然にふれて新たな発見があり、「明日は〇〇に行ける」と思うだけで免疫力が高まるといいます。最近、日本でも森林療法が見直され出しました。お気に入りの場所やそうでないコースでも、風景を見ながら一人で、又は、グループでおしゃべりしながら歩くことは健康のためによいと思います。スケッチは錦多峰川岸からの風景です。

天塩川 “百年の流れ” 遡って

—— 先駆者松浦判官の日記をたどる③ ——

札幌市東区 小泉三雄

第2日目中川町出（天塩大橋まで）

1967年（昭和42年）7月29日午前4時、ぐっすり寝込んだ、スリーピングバックの中から出て、流域の調査に車で出かける。「天塩日誌」に「からす貝、ぬま貝が沢山いて、水の底が真黒に見えるほどで、ちょっとの間に二斗も捕れた」「ペカンベ（菱の実）多くアイヌの食糧になるので、この沼が大きく、ヒシが沢山あった頃はこの辺に人家も多かったそうであるが、今は沼が土に埋もれ、ヒシの実も無くなり、人家も無くなってしまった」「あたりの岩場にトヘンチラ（つばめ）の巣が沢山たって、舟の櫂の音に驚いて巣穴から飛び立つ様は、まるでつむじ風に無数に舞う木の葉のようである」とある。

まず、ぬま貝を採取、なるほど旧河川に沢山あり長さ20センチ以上もある大物を三つも取った。ヒシ水面いっぱい白い花をつけ葉柄の中央部がふくれ、浮き袋の役目をしている。

午前6時30分出発。両岸とも護岸工事行なわれた跡があり川幅が狭くなった。風景のほうは何の風情もなく、いよいよ天塩川らしくなってきた。砂利を取っているのを見たが最後であった。両側は川の侵蝕のせか2～3mくらいの崖（河岸段丘）なっていて、ショウドウツバメのコロニーが随所であり大群が高く低く飛び回っている、巣穴にN隊員が手を入れて見た。「天塩日誌」の正確さを一同改めて認識したのであった。

※150年の年月が流れた現在でも雄信内大橋下流にコロニーあります。所どころに大きな瀬があり、川は蛇行の連続であり、漕ぎ方にまったく力が入ってない、いや竿を‘ろ’に換えなければ速度がおぼつかない、サポート隊に車から大工道具をおろしてインスタントの‘ろ’を二丁作った。「大渦に巻き込まれた」後方からの声、回転している、脱出できるにか！あわててないが見ている方はぞっとした。

時計は3時を過ぎていた今日は日差しが強く手足はまっ赤に日焼けしている青く澄んだ空、見渡すかぎり草原、西空を仰ぐと利尻富士が逆光を浴びて7合目あたりまでシルエットを浮かせている。かすかに郷愁めいたものが脳裏をかすめる。時おり逆風がきてなかなか進まない～橋の上でサポート隊や名寄女子短大の教授らが見守っているのがかすかに見えた。

午後4時30分天塩大橋着（第2夜の宿营地）

— つづく —

北海道ボランティアレンジャー協議会ワッカ原生花園観察会及び研修会
オホーツク支部との共催でサロマ湖ワッカ原生花園にて研修会及び観察会を開催します。

日時 8月4日(土)～8月5日(日)

場所 道立常呂少年の家 北見市常呂町栄浦 365-1 (TEL) 0152-54-2584

講習会会場 少年の家及び(ワッカ原生花園、常呂遺跡)

日程

8月4日(土)	14:00	開会式
	14:15	カヌー体験及び下見(若しくはカキ漁体験)
	18:00	夕陽を見よう(カメラ持参)
	18:30	夕食
	22:00	就寝
8月5日(日)	6:00	起床
	6:30	ラジオ体操
	7:30	朝食
	9:00	現地出発
	9:30	観察会
	11:30	観察会終了解散

経費(一人分概算) 5000円程度

夕食代2000円、宿泊代1000円、懇親会費1000円、朝食代500円

その他500円

列車利用の方札幌発7:21オホーツク1号網走着12:46

網走発13:29オホーツク6号札幌着18:43

網走駅まで送迎を考えています。車の相乗りも考えていますので参加者の方は協力お願い

します。申し込みは研修部長小林英世まで 恵庭市恵み野東5丁目3-1

TEL 0123-36-3944

申し込みの期日は

メール hideyof@mint.ocn.ne.jp まで

7月15日までに

また詳しい事は北見支部 和泉勇さん(090-9431-4287)

(0157-22-2359) まで



ボランティア・レンジャー育成研修会

受講者 募集

北海道には豊かな自然がたくさんあります。この豊かな自然をより多くの人に楽しんでもらい、また自然環境を大切にしてもらうために「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」が、各方面で活躍しています。

今回、自然ふれあい交流館などをフィールドして「ボランティア・レンジャー」を育成する研修会を開催します。

「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をやってみたい方、など、初心者向けの内容となっていますのでお気軽にご参加下さい。

人と自然との橋渡し役でもある「ボランティア・レンジャー」になりませんか！

◇開催日 平成19年9月28日（金）～30日（日） 3日間の研修会です

◇場所 自然ふれあい交流館、野幌森林公園、北海道開拓の村

◇内容 28日（金）野幌森林公園に関する「講演」、安全管理のための「救急法」
29日（土）自然と親しむ「ネイチャーゲーム・観察会」、人と自然との関わり方の「観察会」
30日（日）自然体験・観察のための「プログラムの作成方法」
※ 初日のみ北海道開拓の村で行います
※ 主なプログラムは裏面に記載しております。



◇費用 無料
※宿泊費、現地までの交通費、食事代などは各自負担願います。
※各当日は原則、現地集合、現地解散となります。
※交流館の駐車場は無料。また受講者は初日の開拓の村の入館料・駐車場も無料。

◇定員 30名（9月17日までにお申し込みください。なお定員になり次第×切致します。）

◇対象 3日間通して参加できる方、満18歳以上で自然に興味・関心がある方

◇申込方法 ご希望の方は電話にて「氏名」「住所」「電話番号」「年齢」「交通手段（自家用車・公共交通機関）」をお伝えいただくか、FAX・メールで記入いただき送付して下さい。

◇その他 当研修会に受講された方には、受講証と自然解説員のバッヂを交付いたします。また「北海道ボランティア・レンジャー協議会」への入会も可能です。（希望者のみ）

主催：自然ふれあい交流館 共催：北海道ボランティア・レンジャー協議会 協力：北海道開拓の村

お申し込み・お問い合わせ先・・・

北海道立野幌森林公園 自然ふれあい交流館

〒069-0832 江別市西野幌685-1

電話 011-386-5832 FAX 011-388-7058

メール nfpvc@kaitaku.or.jp

ボランティア・レンジャー育成研修会 2007 ～プログラム～

○1日目【9月28日(金)】・・・場所：北海道開拓の村

時間	内容
12:00～12:30	集合・受付（開拓の村）
12:30～12:45	開講式・オリエンテーション
12:45～13:45	講義【野幌森林公園】 講師：村野紀雄氏（酪農学園大学 教授）
13:50～16:50	救急法・リスクマネジメント
17:00	終了・解散

※1日目のみ、集合・解散場所は『北海道開拓の村』となります。

○2日目【9月29日(土)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:20～12:20	野外実習【自然観察会】 ～ボランティア・レンジャーの活動の実際 ～自然体験活動の指導法
12:20～13:30	休憩（昼食）
13:30～14:00	野外実習【ネイチャーゲーム】 ～自然とのふれあいを楽しむ
14:10～16:00	野外実習【自然観察会 人と自然との関わり】 ～公園内で開拓のなごり（歴史）を見る
16:00	終了

○3日目【9月30日(日)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:00～9:30	集合・受付
9:30～9:40	オリエンテーション
9:40～11:30	講義・実習【プログラム作成と解説方法】
11:30～12:30	休憩（昼食）
12:30～14:00	実習【プログラム作成】
14:00～15:30	発表【フィールド発表】
15:30～16:00	まとめ・講義 【北海道ボランティア・レンジャー協議会と、 ボランティアを行うにあたって】
16:00～16:30	閉校式・アンケート記入、解散

◇持ち物：野外活動に適した服装（長袖・長ズボン）、雨具、昼食（お弁当）など

◇アクセス：新札幌バスターミナル北レーン10番乗り場より

自然ふれあい交流館へは・・・JRバス「文京台循環線」乗車、[文京台南町]下車、徒歩9分
北海道開拓の村へは・・・JRバス「開拓の村」乗車、終点下車すぐ

編 集 後 記

- ・ 北海道新聞社の財団法人、野生生物基金主催のフラワーソンの調査、定山溪、北広島レクの森に参加して植物の生態の貴重な姿を学ぶことができました。調査の様子や調査結果については次号に掲載します。今後ともこうした企画に参加して自然観察会などで蓄積した力を発揮していきたい。
- ・ 三角山の登山観察会に参加された伊藤和夫さんから、すぐに自画像のカットとともにわかりやすい報告をいただきました。弗田成子さんから感性豊かなレポートを送っていただきました。機会があったらまた参加してください。
- ・ 春季号（80号）で積丹の佐藤多美子さんから貴重な報告をいただいたにもかかわらず、名前を久美子と記して間違っていました。謝って訂正させていただきます。
- ・ 結成21年目をむかえ、昨年より組織として成人して、大人となり、それに相応した活動をしてきました。今後、ますます私たちの活動の真価が問われています。観察会などに市民の参加者が増えていることを一つの励みとして頑張っていきたい。
- ・ 次号は10月末発行、9月15日まで広報部の佐藤 清一（北広島）まで送ってください。二つの特集を組む予定（他のページ参照）。みなさんの原稿をまっています。



第81号 夏季号

「エゾマツ」

2007年6月28日発行

会長 田村 允都